

令和元年7月29日

九州地方整備局

菊池川河川事務所

7月20日～22日の大雨における

竜門ダム^{りゅうもん}の効果について

◆竜門ダムの防災操作(ダム下流河川の増水を緩和させる操作)

7月20日～22日の大雨では、竜門ダムへ流れてくる水量の一部を竜門ダムへ貯め、下流の河川へ流す水量を最大で**約86%**低減させました。

◆竜門ダムの水位低減効果

この操作により、ダム下流の菊池市^{ぎょくしやうじ}玉祥寺^{わいふ}隈府水位観測所において、河川の水位を**74cm低下**(**計画高水位^{※1}以上の水位を氾濫危険水位^{※2}以下まで引き下げ**)させる効果がありました。

※1:堤防を計画する時の基準の水位で、堤防が耐えられる最高水位

※2:河川の氾濫の発生を注意する水位

※河川の水位や低下量などは速報値であり、今後変更になることもあります。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 菊池川河川事務所

副所長 大林

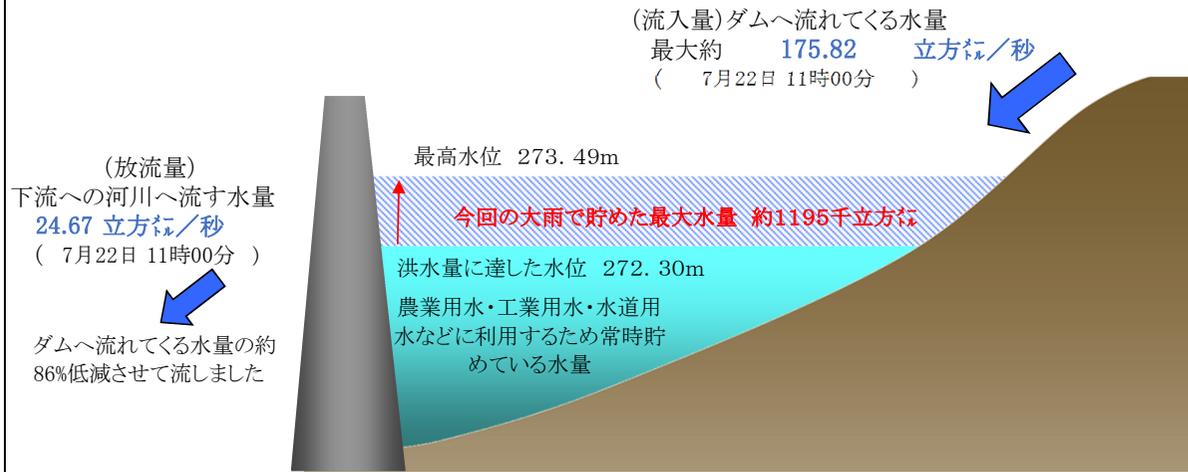
TEL 0968 (44) 2171

竜門ダム管理支所長 松本

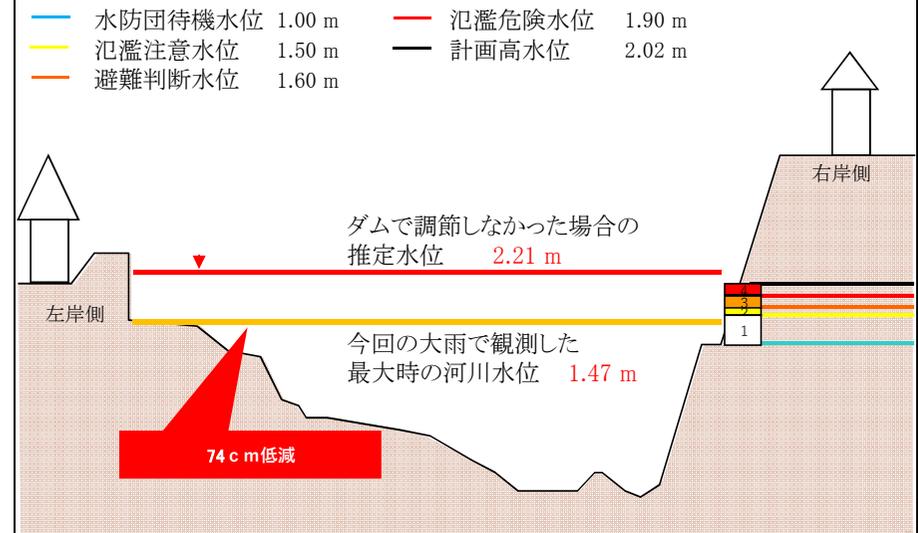
TEL 0968 (27) 1120

竜門ダムの効果(迫間川の水位低下)【R1.7.20~22の大雨】

【竜門ダムの洪水操作】

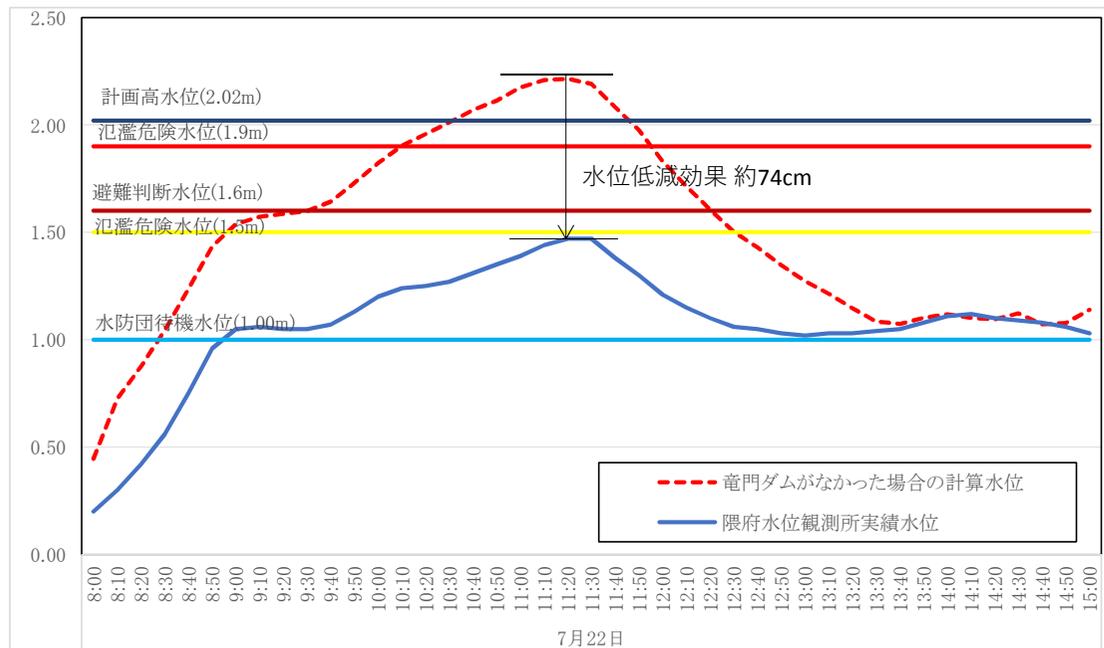


【竜門ダムにおける水位低減効果】



※ダムで調節しなかった場合の推定水位は、速報値のため堤防から川の水が溢れることを考慮しておりません。

【隈府水位観測所 観測水位】



【隈府水位観測所 状況写真】

